

## 兵庫県老人クラブ連合会 様

前略、この度東北をおそった東日本大震災に際しましては、ご厚情あふれるお見舞いと励ましのお言葉をたくさん頂戴し、本当にありがとうございます。

また、先日は手作りでの心のこもった帽子をお贈りいただき、ありがとうございました。

今年は岩手県も厚く連日真夏日が続いており、熱中症で病院に運ばれる人が例年より多いようです。

真夏のきつい日差しの毎日にとても重宝いたします。

これからまだまだ大変な日々が続くとありますが、船岸の方々と手を携えて頑張っています。

本当にありがとうございます。

草々

平成23年7月21日

## 紫波町老人クラブ連合会

謹啓 東北の地も梅雨の季節となり、連日の雨に見舞われて居ります。

先般22日には、遠路にも拘らずまた公務ご多用中のところ、各県の会長さん・局長さん方々のご来石賜りまして、この度の東日本大震災の現地を巡視・お見舞いと激励の御品を頂戴し、誠に有難く石巻市老人クラブ連合会を代表し、心から厚く御礼を申し上げます。

大津波襲来記録を視て、更に現地の一部をご視察戴いたとおり、目の当てようもなく悲惨であり大惨事、私たち老人クラブは「人生の楽園」をこの災害に打ち砕かれる事なく、友愛の精神を強く持って互いに支え合い、時間は多く必要としますが、誓って石巻市老人クラブ連合会をより強硬に再建する事が、皆様方への「御恩返し」と役員一同で肝に命じて頑張る所存です。

頂戴しました「元気袋」を会員個々に配布致しましたところ、皆様方のお心遣いに感謝・感激、涙を流して喜ぶ人もあり、執行部役員の中には涙を誘われる人もある状況で、会員一同心から厚く感謝を申し上げます。

末筆ながら、貴県・市の老人クラブ連合会が益々のご発展と会員各位のご清栄をご祈念申し上げます。

謹言合掌

平成23年7月吉日

石巻市老人クラブ連合会

会長 遠藤 謙治

兵庫県老人クラブ連合会

会長 三澤 泰士 様

山田町飯岡老人クラブ

会長 佐々木 綱文

### 「懐かしの愛唱歌集」を有難うございました

拝啓 残暑厳しい折から、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。この度の東日本大震災に際しましては、温かいご支援を賜りまして本当に有難うございました。お陰さまで、私共も日一日と元気を取り戻しております。

私達飯岡老人クラブは、55名の会員中、30名が直接罹災しました。残念ながら亡くなられた方が1名おられます。55名の会員は、55通りの辛い、苦しい生活でした。夫々避難所へ、県外へ避難等、離散しました。集会場の飯岡防災センターは、津波と火災で使用出来なくなりました。音響設備等財産はすべて焼失しました。新しい山田を復興するにも、高齢者も何かお役に立つ事がある。苦しい中でこそ皆で励まし合い、支え合って行かなければならない。30数年先輩達が築いて来た、飯岡老人クラブを絶やしてはならない。高齢者の心の拠り所になる所は、老人クラブの活動だ、何とか再開しようと役員で相談しました。集会場所がない、唯一ホールのある「立正佼成会山田支部」の支部長さんに借用をお願いしました。快く、空いている時は何時でもお使い下さいと承諾して下さいました。6月8日、23年度の定期総会を開催して、活動を再開しました。毎月例会、お楽しみ会を開催しております。避難所から仮設住宅に入居された方達も活動に戻って来始め、新入会員も2名加わりました。7月6日の例会で七夕飾りを作った折、皆が力を合わせ、笑顔と、大きな声で励まし合う、明るい飯岡老人クラブに戻った様でした。

「心に太陽を抱き、唇に歌を、勇気と励ましを」合言葉に知恵を出し合って活動しております。そんな折、「みんなでうたう愛唱歌集」が欲しい話がありました。震災前からの手持ちは全部無くなったので、岩手県者連へ注文しました。のじぎくクラブ兵庫発行の「懐かしの愛唱歌集」10冊も頂きました。町内の織笠老人クラブは、会員20名ですが福士会長の努力下、7月末に復旧した会長の自宅で活動を再開しました。皆が喜んで10数キロ離れた避難場所から駆けつけて来てくれて嬉しかった。と話を聞きました。歌集の話をしました所、是非活用させて欲しいと言われました。10冊の手持ちなので、早速、岩手県者連にお願いした所、手持ちが無くなったので、兵庫県者連を聞いてみますとの返事でした。数日して、20冊頂けたので贈りますとのメールがありました。8月12日届きました。福士会長は、16冊欲しいと言うので会長宅へ、16冊届けました。岩手県者連へお礼の電話をしたと聞きました。7月末、町内の南老人クラブの甲斐谷会長が避難先から仮設住宅に入居しました。活動を再開するため協議中です。とりあえず、私達の活動に参加出来る人は参加しながら良い方向を皆で見つければ良いのだと話をし、再開の手助けになればと残りの11冊を昨日、甲斐谷会長にお渡ししました。頂いた歌集はその様に活用させていただきました。本当に有難うございました。これからも尚一層のご支援をお願い申し上げます。併せて、兵庫県老人クラブの益々のご繁栄を心からお祈り申し上げます。

敬具

追伸 勝手ながら、私共の機関紙「寿会だより」を同封致しました。ご賞賛いただければ幸いです。

兵庫県老人クラブ連合会様

拝啓

10月も早や中旬となり、遠く山々に目を向けますと木々も錦に色づきはじめ、毎年繰り返す平常の景色がそこにあり、あの災害が本当にあったのかと信じ難い思いがよぎりますが、一転目を海の方に向けますとそこは「紅葉の山」ならぬ「瓦礫の山」がいたるところにあり、大災害より7ヶ月も過ぎました今でも未だ復旧していない現実を目の当たりにしますと、今更ながらあの災害の凄まじさと恐ろしさを感じる昨今です。

さて、この度は貴老連女性部の皆様方の心のこもった支援品(手作り座布団)を沢山送っていただきまして本当にありがとうございました。

折角の皆様方のお心使いを無駄にしないようにと、本格的寒到来の季節の前に早速仮設住宅入居の高齢被災者にお届けいたしましたところ、大変喜ばれ感謝の言葉を戴きました。本当にありがとうございました。

私共大船渡市老連の会員も、元気で老人クラブ活動や地域活動に日々取り組んでおりますが、これも偏に皆様方の暖かいご支援のおかげと思ひ、改めて深く感謝と御礼を申し上げます。

どうぞこれからも暖かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。御礼といたします。

敬具

追伸

忙しさにかまけて御礼を申し上げるのが大変遅れましたことを深くお詫び申し上げます

平成23年10月11日

大船渡市老人クラブ連合会

会長 中村 中

(公印省略)

(事務局長 西村)

謹啓 晩秋の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、三陸沖を震源とする地震に端を発した東日本大震災に際しましては、全国老人クラブ連合会を通じ、貴会からの救援拠金第一次配分を6月13日に、更に、第二次配分として9月20日に謹んで受領いたしました。

全国老人クラブ会員の皆様のご支援と温情あふれる元氣袋等のお見舞いをいただき、ありがたく厚く御礼申し上げます。

今回の震災では、本県の太平洋沿岸250km<sup>2</sup>市町村に点在する411単位クラブのうち190クラブが被災し、会員の死者288名、行方不明者121名、家屋全壊2,002戸、半壊800戸と大きな被害を受けました。

被災された方々は避難所生活を終え、今、仮設住宅に馴染もうと懸命に努力しております。「がんばろう岩手」を合言葉に一日も早く元氣と笑顔を取り戻すことができるように、県老連をはじめ市町村老連一丸となって支援に励み、全国の仲間の皆様からお寄せいただいた善意を生かしてまいり所存でございます。

皆様からのご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。甚だ略儀ではございますが書中をもってご報告かたがたご厚情、ご支援の御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

末筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

平成23年10月28日

謹言

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

財団法人岩手県老人クラブ連合会  
会長 菅野 満



拝啓

菊薫る候と相成りました。皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じお喜び申し上げます。

さてこの度の、3・11 東日本大震災に際しましては、さっそく御丁寧なお見舞いを頂きました。元氣袋、うちわ、そして明石市老年クラブ連合会女性部の皆様による座布団、西脇市老人クラブ連合会女性部の皆様によるカシミア帽子等々、いずれもまごころのこもった手づくりの品々、まことに有難く厚く御礼申し上げる次第でございます。

岩手県山田町というところは、陸中海岸のほぼ真ん中、本州最東端の宮古市へも近代製鉄発祥の地釜石市へもおおよそ25km程のところに位置する小さな漁業の町です。人口の減少が続いているのはご度多分に漏れないのですが、それでも震災前の人口規模は19,000人程度。それが、震災による犠牲者を730人だし、更に行方不明者を43人もだしたということにより、10月1日の人口は17,000人台へと激減しました。

登録漁船の約9割が流され、漁業施設は言うに及ばず流通施設が流される、岸壁等居住地盤が約1mも沈下するといった状況の中で、生産・生活の再建をどのようにして図ればいいのか、途方に暮れているのが実態でございます。

そんな中、被災地のことを愛い、心に留め置きくださいましたことまことは有難く、感謝のことばもありません。

頂いた元氣袋に限りない励ましの叫びを聞きました。仮設暮らしに夏の暑さは堪えませんが、頂いたうちわで、その暑さに立ち向かいました。手づくりの座布団に、汗して働いてきた身をどっかりと任せて癒し、頂いた冠をしっかりと結び直しては、「限りない明日に向かって生きよう。」 私たちはそんなことを話し合いながら、貴クラブ連合会の思いやりに感謝の誠を捧げあっているところでございます。

お礼のご挨拶が遅れてしまいましたがお許しください。

最後に、貴老人クラブ連合会のますますのご発展を祈念申し上げ挨拶といたします。

敬具

〒 650-0011  
神戸市下山手通 4-16-3  
兵庫県民会館内  
兵庫県老人クラブ連合会会長 様  
☎ 078-332-0574

平成23年10月30日

〒 028-1361  
岩手県下閉伊郡山田町織笠 25-77-2  
山田町老人クラブ連合会長  
中村 丈夫  
☎ 0193-82-9263

### 兵庫県老連市町村老連・女性部 様

この度は、心のこもった手作り座布団、カシミア帽子を頂き誠にありがとうございました。会員方へ配布したところ、とても喜んでおりました。皆様が私どものためにと手を動かしておられる様子を思い浮かべ、優しいお気持ちがかもっていることを思うと、私どもの心も温かくなる心地がいたしました。

おかげさまで本村の被災地域のガレキ撤去等も進み、野田村も復興に向けて取り組んでおります。これからの道のりも平坦ではございませんが、少しずつ前に歩んで行けるよう努力を続けていく所存でございます。今後とも温かく見守って下さいますようお願いいたします。

朝夕に寒さが増してくる季節ですので、お体にお気を付けてお過ごし下さい。

まずは書中をもちまして御礼申し上げます。

野田村老人クラブ連合会  
会長 大平 茂

### 兵庫県老人クラブ連合会 様

この度は、手作りの小物入れを頂戴し、誠にありがとうございました。早速、被災された会員の方々へ配布したところ、大変喜んでおられました。

兵庫県老連の会員の皆様のお気持ちをお届けいただき、また1歩復興に向けて進み出す力となりとても感謝しております。今後とも温かく見守って下さいますようお願い申し上げます。

当地は寒さが急に増し、雪もちらつくようになってまいりましたが、会長様はじめ、会員の皆様方にはくれぐれもお体ご自愛の上、お元気で活躍されますようご祈念申し上げます。

甚だ失礼とは存じますが書中をもちまして御礼のごあいさつとさせていただきます。

野田村老人クラブ連合会  
会長 大平 茂

## 御 礼

### 兵庫県老人クラブ皆さんへ

去る、3月11日、の東日本大震災で大槌町は壊滅状態に陥りました。これまで全国老人クラブの皆さんから、数々の温かいご支援を戴いて参りましたが、この度はまた、復興支援、座布団(てづくり)、を届けていただき誠に有り難うございました。ご支援に感謝し、厚くお礼を申し上げます。

わたくし達、会員1人ひとりが、それぞれの悲しみ、苦しみ、また今後の、ことが胸の中に抱え込んでおりますが、一歩づつ、焦らず、震災前の笑顔を取り戻して行くよう頑張っていきたいと思っております。

どうか見守って下さい。 宜しくお願い致します。

岩手県老人クラブ連合会  
大槌町老人クラブ連合会、会長 細川 汪  
〒028-1122  
上閉伊郡大槌町桜木町 11-6

この度は震災見舞いの「元気袋」並びにのど飴、エコバックと心温まる品々をお届けいただきましてまことにありがとうございました。

6月3日、早速現地(避難所)へお届けし、皆様方の心尽くしをお伝えいたしましたところ、一同感謝の気持ちでいっぱいでした。

私たちが皆様の応援の気持ちを心にこの困難を乗り越えるべく、力の限り努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます、御礼の挨拶といたします。

平成23年6月7日

兵庫県老人クラブ連合会 様

(財)宮城県老人クラブ連合会  
小野田地区老人クラブ連合会

県連合会長坂本 せん

平成23年6月30日

兵庫県老人クラブ  
連合会様

多賀城市老人クラブ連合会  
会長 番 金助  
女性部長 高橋せつ子

東日本大震災にあたり、早速に御見舞をたまわり厚く御礼を申し上げます。

当市の被災は、地震より大津波による死者、家屋の被害が殆どで、未だ避難生活をされております。

本会の被災クラブは、24クラブの内4クラブで、4名の会員が亡くなりました。昨29日晴天になりましたので、先にいただきました「宝塚老連元気袋」と合わせ仮設住宅入居被災者にお渡し致しました。

受けられた被災の皆さんも喜んで頂きましたのでお伝え申し上げます。

本会の23年度事業も決めておりませんが、7月末までには会合を持ち、本来の活動に入る予定でご座います。

末筆ながら、貴会の益々のご発展を祈念申し上げます御礼にかえさせていただきます。

謹啓 晩秋の候 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本年三月十一日に発生いたしました東日本大震災に際しまして、全国老人クラブ連合会を通じ被災地に対する救援拠金を謹んで受領いたしました。

全国の老人クラブ会員の皆様の温情あふれる真心のこもった「元気袋」等のご支援に対しありがたく厚く御礼申し上げます。

今回の震災では、本県の太平洋沿岸を中心に甚大な被害をもたらしました。

十一月二日現在の人的被害は、死者九千四百六十二名、行方不明者二千六名、負傷者四千八名となっており住家の被害では、全壊七万七千二十一棟、半壊九万三千三百七十八棟、一部損壊十七万八千二百二十一棟と大きな被害を受けました。

震災発生後八月を過ぎようとしていますがその後の余震による被害も含め、いまだに正確な被害状況は、つかめない現状となっております。

被災された方々は、現在ほぼ一時避難所での生活を終え、仮設住宅や県内・県外での避難生活を続けているところでもあります。

このようなことから沿岸部の老連では、いまだに会員の所在の確認ができず従来の組織活動も行えない状態となっているところもごございます。

県老連といたしましても、各市町村老連と一丸となって全国の仲間の皆様からお寄せいただいた善意を活かし「復興へ頑張ろう!みやぎ」を合言葉に一日も早く元気と笑顔を取り戻せるよう老人クラブの再興・復興に取り組んでまいり所存でございます。

皆様のご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、なにとぞご容赦のほどお願い申し上げます。

甚だ略儀ではございますが書中をもちましてご報告かたがご厚情及びご支援の御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

末筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

平成二十三年十一月十日

各都道府県老人クラブ連合会 様  
各指定都市老人クラブ連合会 様

財団法人 宮城県老人クラブ連合会  
会長 坂本 せん

謹啓 師走の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
さて、本年3月11日に発生した東日本大震災に際しましては、全国老人クラブ連合会を通じて、救援拠金の第一次配分を6月13日に、第二次配分を9月20日に謹んで受領いたしました。  
全国の老人クラブ会員の皆様から心温まるご支援、真心のこもった元氣袋で大変励ましていただき、ありがたく厚く御礼申し上げます。  
今回の大震災で仙台市は太平洋沿岸地域の被害が甚大で、死者は101名、住宅全壊808棟、半壊964棟、震災にあったクラブは307クラブがありました。  
東日本大震災を経験し、私たち（高齢者）は老人クラブ会員同士や地域の方々と交流を深め合い、支え合うことの大切さを実感しながら、一日も早く笑顔と元氣を取り戻せるよう「支えあい 頑張ろう！仙老連」を合言葉に丸一となっているところでございます。  
仙台市老人クラブ連合会といたしましても、全国の皆様からの善意の救援拠金を活かして、老人クラブ会員が復旧、復興に頑張る地域社会の再生の力になれるよう大切に使わせていただきます。  
皆様からのご支援に対する御礼が大変遅くなりましたこと、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。甚だ略儀ではございますが、書中をもってご報告かたがたご厚情、ご支援の御礼を申し上げます。  
末筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。  
なお、当連合会会長に不幸がございましたので、この書面に新春の挨拶を控えさせていただきますことをお許しいただきます。

謹白

平成23年12月18日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

社団法人 仙台市老人クラブ連合会  
会長 橋本 典彦  
社団法人 仙台市老人クラブ連合会 会長 橋本 典彦 印

謹啓、仲秋の候ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、本年3月11日午後2時46分発生した東日本大震災に際し、全国老人クラブ連合会を通じて被災地に対する救援拠金の一次配分を6月13日に、更に、二次配分として9月20日に謹んで受領いたしました。  
全国の老人クラブ会員皆さまの、いち早い御支援と温情溢れる元氣袋等の御見舞いをいただき、ありがたく厚く御礼申し上げます。  
今回の地震は日本有史以来という大規模地震とそれに伴う巨大な津波により、東北地方を中心に太平洋沿岸に甚大な被害をもたらしました。福島県においても、10月5日現在で死者1,845名、行方不明者120名をはじめ、住宅被害では全壊、半壊及び一部損壊を含め約20万5千棟を超える大きな被害となりました。  
更に福島県では、地震や津波の被害に追い討ちをかけるように、東京電力第一原子力発電所の事故による放射線漏れが発生しました。事故発生後半年以上が経過し少しずつ落ち着きを取り戻しておりますが、原発立地周辺地域は未だ自宅には戻れず瓦礫の撤去も一向に進まないため、正確な被害状況もつかぬ現状となっております。  
原発事故による老人クラブ組織に及ぼす影響では、9市町村老連が避難指示に伴い老人クラブ組織活動が困難な状況になりました。地震、津波、原発事故を合わせ15市町村老連の280単位クラブで約1万6千人の会員が県外及び県内にそれぞれ避難しており、従来の組織活動ができず壊滅状態となっております。  
そのような中で、老人クラブ会員を中心に、「負けない」「支え合う仲間がいる」「必ず故郷に戻る」という強い信念と希望を持ち、老人クラブ再興に熱い思いを寄せております。  
被災された方々は、長期の生活となる仮設住宅やそれぞれの避難先において、辛抱と忍耐力を持って生活されておりますが、この方々が真に喜び明るい生活を取り戻せるように、全国の仲間の皆さまからお寄せいただいた善意を生かしてまいり所存でございます。  
なお、福島県全域が「放射能危険地域」と思われておりますが、放射線の区域はごく限られた地域に限定されておりますので、風評には惑わされることがないようにお願いいたしますとともに、ぜひ、福島県産品のご購入や老人クラブの旅行等を福島県や宮城県・岩手県方面に企画し、元氣付けていただければありがたく存じます。  
また、参考までに9月22日現在で約5万6千5百人の方が福島県以外の各都道府県に避難されておりますので、都道府県別避難状況をお送りいたします。この方々の中で60歳以上の方が皆さまのお近くに在住の際は、老人クラブ等地域活動にお誘いいただき、励ましのお声を掛けていただければ幸いです。  
皆さまの御支援及び善意に対する御礼が遅くなりましたこと、何卒ご容赦願います。甚だ略儀ではありますが、書中をもって御報告かたがたご厚情及び御支援の御礼を申し上げます。ありがとうございました。  
末筆ではありますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹言

平成23年10月5日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

長老連第 号  
23.10.-7

財団法人福島県老人クラブ連合会  
会長 渡部 盛美

謹啓 晩秋の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、本年3月11日の東北地方太平洋沖地震に端を発する東日本大震災に際し、全国老人クラブ連合会を通じ、貴会からの救援拠金の一次配分を6月13日に、更に、二次配分として9月20日に謹んで受領いたしました。  
全国老人クラブ会員の皆様のご支援と温情あふれるお見舞いや元氣袋をいただき、ありがたく厚く御礼申し上げます。  
今回の震災では、茨城県は地震や津波に加え、液状化の被害に見舞われ、11月4日現在で、死者行方不明者25名、住宅被害では全壊、半壊及び一部損壊を含め18万7千棟を超える被害となりました。  
会員のなかにも、自宅が津波に流された方や液状化で住めなくなった方なども多くおられましたが、地震直後から地域で助け合う光景が多く見られたと聞いております。  
このような中で、すべての会員が一日も早く笑顔と元氣を取り戻すことができるように、県老連をはじめ市町村老連丸一となって支援に励み、全国の仲間の皆様からお寄せいただいた善意を生かしてまいり所存でございます。  
皆様からのご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、何卒ご容赦願います。甚だ略儀ではございますが、書中をもってご報告かたがたご厚情とご支援の御礼を申し上げます。  
ありがとうございました。  
末筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹言

平成23年11月11日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

財団法人 茨城県老人クラブ連合会  
会長 山口 篤

謹啓 晩秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、本年3月11日に発生いたしました東日本大震災に対し、全国老人クラブ連合会を通じて救援拠金を第一次配分を6月13日に、第二次配分を9月20日に謹んで受領いたしました。  
全国の老人クラブ会員の皆さまのご支援に、ありがたく厚く御礼申し上げます。  
今回の震災では、栃木県は内陸県であることから地震による被害だけでしたが、死者4名、住宅被害全壊264棟、半壊2,029棟、一部損壊65,763棟と大きな被害を受けました。住居の全壊、半壊及び地滑り等の被害のため一時的に避難されていた方々は、現在一時避難所での生活を終え、一部の方々が仮設住宅等に入室しているだけとなっております。  
また、本県は被災県ではありませんが、東北各県からの避難者の方々の一次避難所が県内各地に設置され、多くの老人クラブ員もボランティアとして支援に参加し、交流を深め支え合うことの大切さやすばらしさを改めて実感し、組織化の必要性を再認識した次第であります。  
県老連といたしましても、全国の皆様からお寄せいただいた救援拠金を活かし、被害を受けられた方々が一日も早く笑顔を取り戻せるよう各市町村老連と丸一となって支援していく所存でございます。  
皆様のご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、なにとぞご容赦のほどお願い申し上げます。  
甚だ略儀ではございますが、書中をもちましてご報告かたがたご厚情及び御支援の御礼を申し上げます。  
末筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

平成23年11月30日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

財団法人栃木県老人クラブ連合会  
会長 佐藤 六夫

謹啓 初冬の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年3月11日に発生いたしました東日本大震災の衝撃に落ち着かない中、翌3月12日午前3時59分に本県と長野県の県境地域を震源地とした最大震度6強の「長野県北部地震」が発生いたしました。

全国老人クラブ連合会を通じ、本県に対しても「東日本大震災関連」として貴会からの救援拠金を、第一次配分を6月13日に、第二次配分を9月20日に謹んで受領いたしました。

全国老人クラブ会員の皆様のご支援をいただき、ありがたく厚く御礼申し上げます。今回の「長野県北部地震」は、11月11日現在で、人的被害は重軽傷者が45名、住宅被害では全壊39戸、半壊255戸、一部損壊2,061戸という大きな被害を受けました。

被災地は新潟県の中でも特に高齢化率の高い津南町、十日町市松代・松之山地区、上越市大島区という山村地域であり、従来からの住民間の結びつきの強い地域です。

今後とも、この「人と人との絆」を大切に、一日も早く元気と笑顔を取り戻すことが出来るように、県老連をはじめ市町村老連一丸となって支援に励み、全国の仲間の皆様からお寄せいただいた善意を生かしてまいる所存でございます。

また、本県は平成16年7月の「豪雨水害」、同年10月の「中越大地震」、平成19年7月の「中越沖地震」と、近年3度の被災を経験しております。そのときの全国の皆様からの支援に対する感謝の気持ちで、東日本大震災の被災地、特に隣県である福島県から避難されてきた方が多くおられる状況下で、慣れない「新潟の地での冬」を迎えられる方々のサポートを各市町村老連・単位クラブにおいても出来る限り行う所存でございます。

皆様からのご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。甚だ略儀ではございますが書中をもってご報告かたがご厚情、ご支援の御礼を申し上げます。

末筆ではございますが、貴会のますますのご発展をお祈り申し上げます。 謹白

平成23年12月1日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

財団法人 新潟県老人クラブ連合会  
会長 大野 一伊



謹啓 師走の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年3月11日に発生した東日本大震災、引き続き長野県北部地震に際しましては、全国老人クラブ連合会を通じて、貴会からの被災地に対する救援拠金の一時配分を6月13日に、さらに、二次配分を9月20日に謹んで受領いたしました。

全国の老人クラブ会員の皆様から心温まるご支援、お見舞いをいただき、ありがたく厚く御礼申し上げます。

平成23年11月11日現在の人的被害は避難生活によるストレス、過労が原因による死者3名、住家被害として全壊、半壊、一部損壊704棟の被害を受けました。

今回、被災した栄村を中心としたこの地域は日本有数の豪雪地帯で、これからの冬本番を迎えるにあたり家屋の修繕や除雪対策に苦慮しているとお聞きをしております。

このような中で、会員が一日も早く笑顔と元気を取り戻せるように、県老連、市町村老連一丸となりまして、全国の仲間の皆さんからいただきました善意を活かしてまいります。

皆様からのご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。甚だ略儀ではございますが書中をもってご厚情、ご支援の御礼を申し上げます。

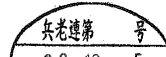
末筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

平成23年12月2日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

財団法人 長野県老人クラブ連合会  
会長 宮内 文雄



謹啓 寒冷の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年3月11日に発生いたしました東日本大震災に対し、全国老人クラブ連合会を通じて、救援拠金の第一次配分を6月13日に、第二次配分を9月20日に謹んで受領いたしました。

全国の老人クラブ会員の皆様から心温まるご支援にありがたく厚く御礼申し上げます。

今回の震災では、青森県は太平洋沿岸地域の被害が甚大で、総被害額は約1,337億円でした。

死者は3名、行方不明者1名、重軽傷者47名、住家全壊311棟、半壊853棟、一部破壊121棟でした。

今は、少しずつ復旧、復興しておりますが、まだまだこれからです。老人クラブ会員同士相互の交流を深め合い、支え合うことの大切さを実感いたしました。

県老連といたしましても、全国の皆様からの善意の救援拠金を活かしてまいります。

また、県内会員から集めた県独自の救援金については、被害にあった会員に対して「見舞金」としてお渡ししました。

皆様からのご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。甚だ略儀ではございますが、書中をもってご報告かたがご厚情、ご支援の御礼を申し上げます。

末筆ではございますが、貴会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

謹白

平成23年12月7日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 殿  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 殿

財団法人 青森県老人クラブ連合会  
会長 今本 芳徳



謹啓 寒冷の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年3月11日に発生いたしました東日本大震災に際しましては、全国老人クラブ連合会を通じて、救援拠金の第一次配分を6月13日に、第二次配分を9月20日に謹んで受領いたしました。

全国の老人クラブ会員の皆様方のご支援をいただき、ありがたく厚く御礼申し上げます。

今回の震災では、山形県は大きな被害はなかったものの、原発による風評被害により様々な面で苦労しております。

また、本県には隣県福島県を含め被災地から避難されている方は、現在でも13,000名を超え、生活をされております。

慣れない状況下で、これから迎える山形の厳しい冬と不安な気持ちを共に乗り切ってくださいよう、全国の皆様からお寄せいただいた救援拠金を交流支援などの形で生かし、本会としても被害を受けられた方々が一日も早く笑顔を取り戻せるよう今後も支援させていただき所存でございます。

皆様のご支援に対する御礼が遅くなりましたこと、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。甚だ略儀ではございますが、書中をもってご厚情、ご支援の御礼を申し上げます。

末筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

平成23年12月16日

各都道府県老人クラブ連合会 会長 様  
各指定都市老人クラブ連合会 会長 様

社団法人 山形県老人クラブ連合会  
会長 白石 敏



平成23年9月7日

(財)兵庫県老人クラブ連合会 様

このたびは、「ビッグバレットふくしま」の避難者のために、お心遣いをいただきまして、誠にありがとうございました。改めまして、御礼申し上げます。

避難所である「ビッグバレットふくしま」は、平成23年3月16日に開所以来、5ヶ月を超える長期間、全国の皆様の数多くの励ましや御支援に支えられて、これまで運営してまいりましたが、この8月31日をもって閉所となりました。

寄贈品とともに、(財)兵庫県老人クラブ連合会様からいただきました勇気と元気は、今後、これからの生活を立て直すために必要な「ちから」となるものと堅く信じております。

今後とも、東日本大震災によって被害を受けた被災地に対する御支援を引き続きお願いいたしますとともに、皆様の御健康を御祈念申し上げます。

「ビッグバレットふくしま」内  
生活支援ボランティアセンター：おだがいさまセンター  
〔富岡町社会福祉協議会〕  
TEL 024-947-6260

平成23年12月28日

兵庫県老人クラブ連合会 様

社会福祉法人旭壽会  
特別養護老人ホーム一心苑  
施設長 中塩伸也

会報「一心」第57号の送付について

過日は、心あたまる支援物資「元気袋」をたくさん贈って頂き誠にありがとうございました。頂戴した品は、本事業所併設の在宅介護支援センターの職員が、仮設住宅に住む被災された高齢者の方を訪問するつどお配りしています。

本事業所発行の会報「一心」第57号の3ページに、貴会からの「元気袋」のことで掲載いたしましたので、ご覧頂ければ幸いです。

本法人役員一同、事業をとおして被災地の復興と再生に少しでも貢献していきたいと思っておりますので、これからもご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

新しき年が、皆さまにとって健やかで幸多きことを心からお祈りいたします。

寒さ厳しき折から ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本施設の運営につきまして、格別のご支援とご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは数多くのパスタオル等をお送りいただきまして誠にありがとうございました。

お送りいただいたパスタオル等につきましては介護業務の中で有効に活用してまいりたいと存じます。

さて、昨年3月11日に発生した東日本大震災においては全国の皆様から心温まるご支援をいただき本当にありがとうございました。

現在のところは本市内でも若干放射能線量の高いところもありますが、私どもの施設付近の線量は低く、業務等には支障はありませんのでご安心ください。

また、貴県におかれましては阪神大震災から17年を経過されたと聞き、月日のたつのは早いものだと驚いておる次第です。

一日も早く皆様のように素晴らしい復興ができるよう頑張っていきたいと思っております。

このたびは思いがけないご厚意を賜りましたこと心より感謝申し上げますとともに、末筆ながら貴団体のますますのご発展とご活躍をお祈りします。

敬 具

財団法人兵庫県老人クラブ連合会長 様

平成24年1月吉日

特別養護老人ホーム信夫の里  
施設長 中島靖治

拝啓 向寒の候、貴会におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
この度は、貴会の皆様方よりとても心温まる贈り物を賜りましたこと心より厚く御礼申し上げます。  
当法人の各施設に入居されている利用者の方々より、是非感謝の気持ちをお伝えいたしたく、お礼状を送らせていただきます。  
これからも変わらぬご交誼を賜りますようお願い申し上げます。書中にて御礼申し上げます。  
敬具

平成二十三年十一月吉日

社会福祉法人 和仁福祉会

理事長 蕭 藤 仁 一

財団法人 兵庫県老人クラブ連合会  
会長 三 澤 泰 士 殿

14  
行連合会